

6. ロート奈良鴻池パーク・上野公園・橿原運動公園駐車場(部隊参集訓練)

1. 訓練の背景

今後発生が危惧される南海トラフ地震、首都直下地震及び日本海溝千島海溝周辺海溝地震等の大規模災害並びに能登半島地震における活動成果・課題を踏まえ、奈良県の受援力強化及び緊急消防援助隊の連携強化や技術力の向上を図る必要がある。

2. 訓練において目指すべき方向性

- ・受援計画に基づいたスムーズな部隊受け入れ
- ・陸路以外の選択肢を活用した部隊進出
徳島県土砂風水害機動支援部隊 徳島港⇒和歌山港へフェリー進出

3. 全体図

ロート奈良鴻池パーク



進出部隊

- ①京都府統合機動部隊
- ②京都府大隊
- ③滋賀県大隊
- ④福井県土砂風水害機動支援部隊

ベストライン上野パーク



進出部隊

- ①和歌山県統合機動部隊
- ②和歌山県大隊
- ③徳島県土砂風水害機動支援部隊

橿原運動公園駐車場



フォワードベース
(橿原運動公園野球場)

進出部隊

- ①大阪府統合機動部隊
- ②大阪府大隊
- ③三重県統合機動部隊
- ④三重県大隊
- ⑤兵庫県大隊

4-1 陸上部隊タイムスケジュール

10月25日(土)

進出拠点到着時間

ベストライン上野パーク

和歌山県統合機動部隊	12:15
和歌山県大隊	13:00
徳島県土砂風水害機動支援部隊	13:45

ロートフィールド

京都府統合機動部隊	12:15
京都府大隊	13:00
滋賀県大隊	13:30
福井県土砂風水害機動支援部隊	13:45

橿原運動公園

大阪府統合機動部隊	12:15
三重県統合機動部隊	12:45
大阪府大隊	13:00
三重県大隊	13:15
兵庫県大隊	13:30

4-2 指揮支援部隊タイムスケジュール

10月25日(土)

ヘリ輸送				陸路輸送		
京都市統括指揮支援隊	京都市消防航空隊	奈良県ヘリポート	9:25	奈良県広域	奈良県庁	10:00
大阪市指揮支援隊	大阪市消防航空隊	橿原運動公園	9:20	奈良県広域	広域本部	9:40
神戸市指揮支援隊	神戸市消防局航空機動隊	橿原運動公園	9:40	奈良県広域	広域本部	10:00



7. 橿原運動公園駐車場、かしはら安心パーク、コメリパワー田原本店第二駐車場(後方支援訓練)

1. 訓練の背景

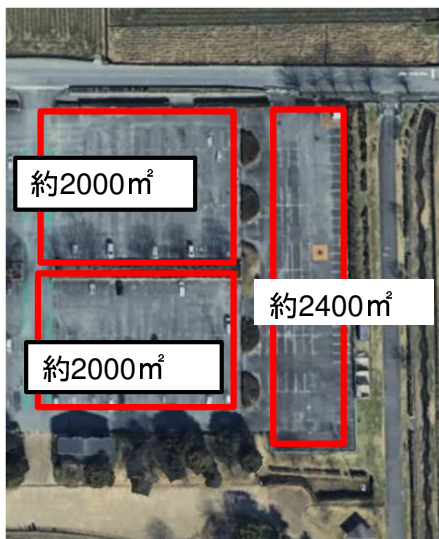
今後発生が危惧される南海トラフ地震、首都直下地震及び日本海溝千島海溝周辺海溝地震等の大規模災害並びに能登半島地震における活動成果・課題を踏まえ、奈良県の受援力強化及び緊急消防援助隊の連携強化や技術力の向上を図る必要がある。

2. 訓練において目指すべき方向性

- ・部隊規模に応じた宿営場所の設定
- ・後方支援活動能力の強化

3. 全体図

橿原運動公園駐車場



かしはら安心パーク



コメリパワー田原本店第二駐車場



4. タイムスケジュール

10月25日

- ・午前中に要員配置
- ・14時30分 順次部隊が到着し後方支援体制の設営
- ・19時30分 順次活動部隊が訓練終了し到着
- ・各ミーティング、食事
- ・22時30分 サイレントタイム
(車両エンジン・資機材停止)
要員引上げ

10月26日

- ・5時30分 活動開始
- ・6時00分 要員到着
- ・7時00分 活動部隊が出発
- ・隣接府県の研修
- ・9時00分 撤収
- ・11時30分 各府県引上げ完了
- ・13時00分以降 最終確認後に要員引上げ

宿営部隊

宿営部隊

宿営部隊

※橿原運動公園は進出拠点及び宿营地として使用。状況を見て奈良県広域北側駐車場も利用

前年度訓練 宿営状況



8. 飛鳥駅(DMAT広域鉄道搬送訓練)

1. 訓練の背景

災害時に転院搬送を必要とする患者や被災した傷病者等を医療提供体制が整っている地域へ、鉄道を用いて輸送することを目的としたもの。奈良県は、南海トラフ巨大地震において、県内の医療提供能力が低下し、平常時の医療提供体制を維持できないうえ、傷病者発生による医療需要が増加することが予測されることから、医療を必要とする県民を適切な医療を受けられる地域へ搬送するため、大量輸送を行うことができる鉄道車両を用いて訓練を行うもの。

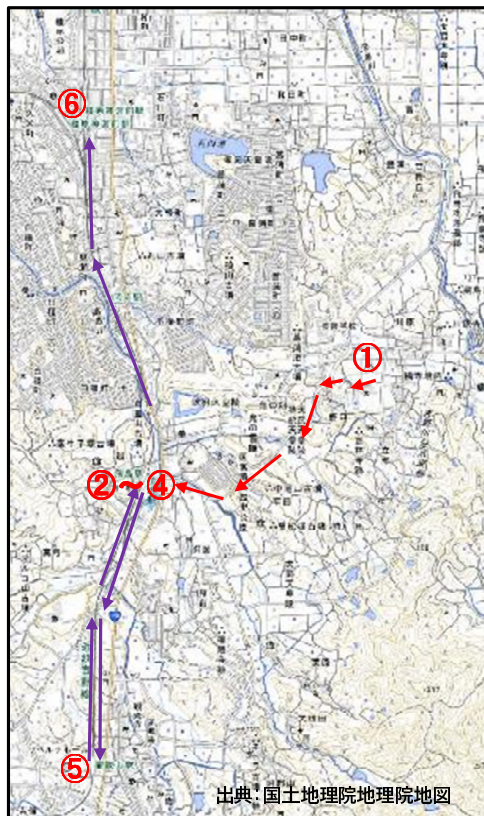
2. 訓練において目指すべき方向性

- ・今後の鉄道による広域搬送に向けた以下の課題抽出及び検証
- ア 鉄道輸送を行う際の患者搬送方法
- イ 列車内における患者の固定方法
- ウ 列車内での医療活動
- エ 鉄道輸送で利用できる資機材
- オ 輸送に適した条件（駅の構造等）

3. 訓練想定

大規模地震の影響により、県内病院が被災、また損傷が少ない病院にも傷病者が詰めかけている。その中で、各病院の医療資源が枯渇してきており、平常時の医療提供体制を維持できないため、輸送可能な患者を他の地域へ鉄道車両で輸送することを決定し、飛鳥駅において患者搬送を実施。

4. 全体図



① 明日香村役場

- ・傷病者役の学生を自衛隊救急車に乗車



② 飛鳥駅（駅前広場）

- ・自衛隊救急車で搬送された傷病者が到着
- ・患者をトリアージポストへ移送
- ・駅前広場にトリアージポストのテントを設置
- ・トリアージポストでDMATがトリアージ



④ 飛鳥駅にて乗車

- ・駅ホームから列車内へ傷病者を搬入

③ 飛鳥駅（駅前広場からホームへ）

- ・トリアージされた傷病者を車椅子や担架で駅構内へ搬送
- ・重症度に応じ担架、車椅子等で移動



⑤ 車内で訓練

- ・飛鳥駅→壺阪山駅→橿原神宮前の列車内で患者の固定方法や医療救護に関する訓練を実施



⑥ 橿原神宮前駅で降車

- ・橿原神宮前駅で降車
- ・一部患者を自衛隊救急車で病院へ搬送



5. タイムスケジュール

10月25日(土)

- 12:30 明日香村役場から患者第1陣を自衛隊救急車で搬送（以降、第3陣まで搬送）
- 12:40 飛鳥駅に第1陣到着、第1陣のトリアージ開始
- 13:25 飛鳥駅に第3陣到着
- 14:00 飛鳥駅のホームへトリアージ後の患者搬送開始
- 14:25 輸送者のホーム搬入完了
- 14:36 患者輸送列車飛鳥駅着、乗車開始
- 14:47 患者輸送列車飛鳥駅発
- 14:50 患者輸送列車壺阪山駅着
- 列車内で医療救護訓練
- 15:27 患者輸送列車壺阪山駅発
- 15:35 患者輸送列車橿原神宮前駅着
- 患者の搬出
- 15:40 一部患者を自衛隊救急車で橿原市内の病院へ搬送

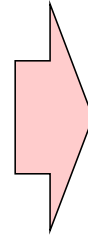
6. 参加機関

明日香村、明日香村消防団、近畿日本鉄道、奈良学園大学、奈良県、奈良DMAT、陸上自衛隊第3衛生隊、第7施設群

9. 三宅町体育館(避難所開設・物資輸送訓練)

1. 訓練の背景

今後発生が危惧される南海トラフ地震や内陸型地震（奈良盆地東縁断層帯、中央構造断層帯等）による大規模災害に備えるため、様々な地域の実情（高齢化等）に即した災害対応力を高める必要がある。



2. 訓練において目指すべき方向性

- ・地域防災力の向上を避難所運営訓練を通じて目指す。地震等の発生を受け、避難所の開設・避難者の受入・運営までの訓練を実施。
- ・医療による避難所アセスメントをはじめ、避難所の受援力を高めると同時に新たなニーズ（ペット防災、衛星通信）に対する避難所のあり方も確認する。

3. 訓練想定

広陵町及び高取町において最大震度6強を観測。三宅町は三宅町体育館を避難所として開設し、避難者を受入れるとともに、被災地に対するプッシュ型支援を実施

4. 全体図



5. タイムスケジュール

10月26日(日)

- 8:00 体育館 開場
- 8:30 避難所受入準備
関係者集合 訓練準備
- 9:00 避難所開設・運営訓練開始
自衛隊による炊き出し・風呂支援準備
災害ボランティアセンター設置
救援物資受入訓練
衛生通信（スターリンク）設置
气象台資料展示
- 9:30 要配慮者避難対応訓練
各種訓練開始
- 10:00 避難所アセスメント
- 11:00 炊き出し等の提供
- 11:15 訓練終了（予定）

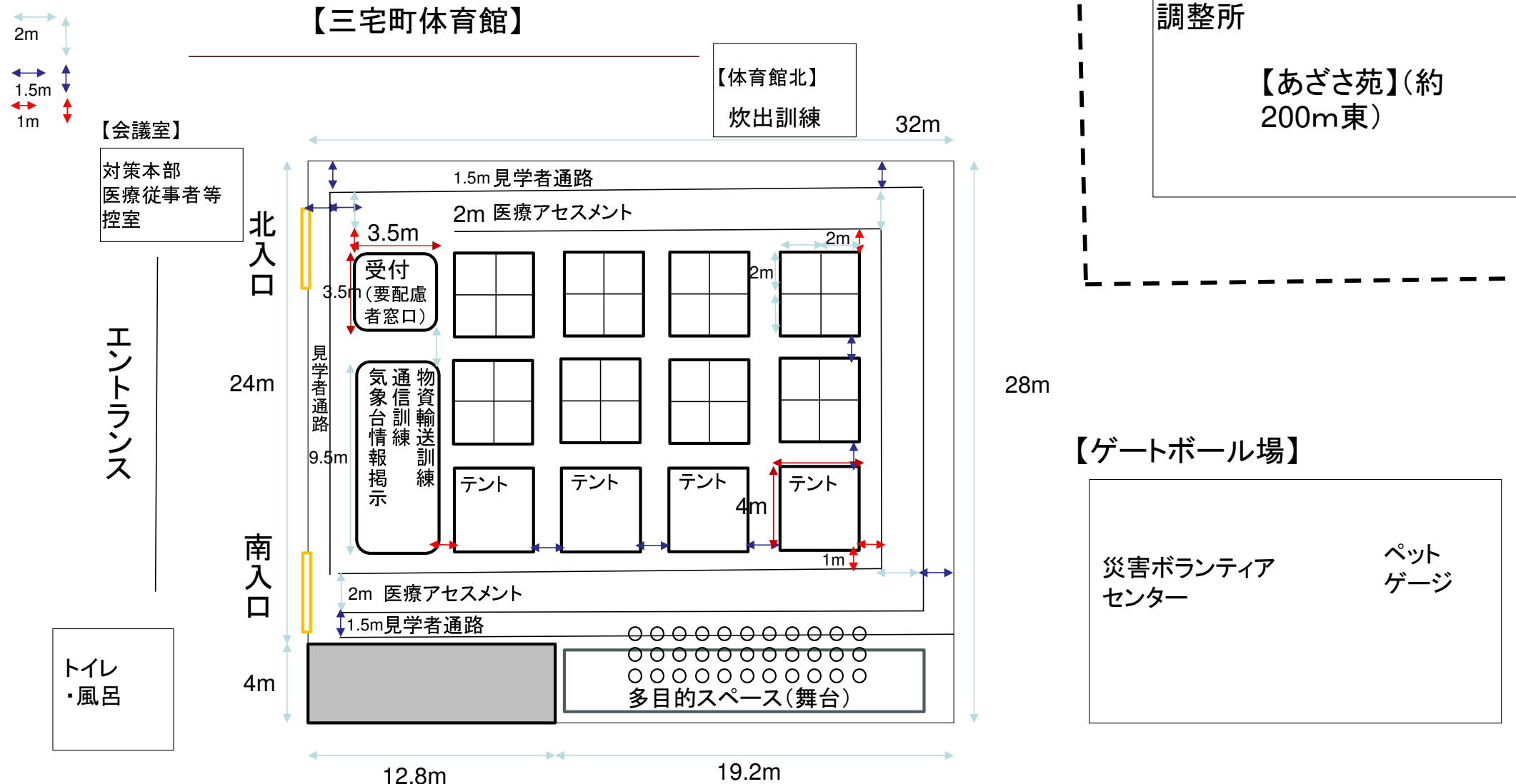
6. 参加機関

三宅町、航空自衛隊、隊友会、陸上自衛隊、三宅町自主防災会、奈良県防災士会、一般社団法人社会課題解決支援協会、奈良県医師会、奈良県歯科医師会、奈良県歯科衛生士会、奈良県薬剤師会、日本赤十字、奈良県看護協会、奈良県栄養士会、奈良県災害支援ネットワーク、奈良県社会福祉協議会、三宅町社会福祉協議会、ハートランドしぎさん看護専門学校、関西広域連合、奈良県トラック協会、ならコープ、総務省近畿総合通信局、KDDI株式会社、うだアニマルパーク、奈良県獣医師会、奈良地方気象台

9. 三宅町体育館(避難所開設・物資輸送訓練)

	訓練内容等	訓練内容	関係団体等
1	避難所開設訓練	①三宅町の住民に対して、避難所の開設し、受付を実施 ②避難者の受付からテントの割り当て要領について訓練	①県(防統)、三宅町②防災士会 ③ハートランド 看護学校
2	避難所運営訓練	①避難所を開設後の自衛隊と協同した食事の配布やゴミ処理等 避難者の避難所運営に係る一連の行動 ②テント、食事、入浴、トイレなどの避難所に必要な施設の設置及び体験	①県、三宅町②自衛隊(陸・空)③隊友会
3	障害者避難対応訓練	①障害者が避難者に来場した際の、受付要領 ②避難テントの割り当て ③避難所設置のトイレ、入浴施設等施設の体験	①県、三宅町②社会問題解決支援協会
4	避難所アセスメント 訓練	①避難所の生活状況を確認し、医療ニーズを把握するため、医師、看護師、 歯科衛生士、薬剤師等により、チームを編成し巡回 ②巡回後の記録・整理	①県、三宅町②中和保健所③県医師会④県歯科医師 会⑤歯科衛生士会⑥薬剤師会⑦赤十字⑧看護協会⑨ 衛生士会⑩DPAD
5	災害ボランティア等避難所 運営協力訓練	①ボランティアセンターの開設、受付要領の確認 ②ボランティアニーズの把握と内容に応じた配分の実施	①県(県民くらし)、三宅町②県、三宅町社協 ③災害支援ネットワーク
6	物資輸送訓練	①関西広域連合からの救援物資の受入 ②県1次拠点(消防学校)から三宅町体育館への救援物資の輸送	①県、三宅町②関西広域連合③トラック協会④奈良 コープ
7	通信回線設置訓練	①総務省重要無線室と協同して、避難所における衛星回線の開設・維持して 避難所の通信を維持する訓練 ②住民又は三宅町職員による衛星回線の構成	①県、三宅町②総務省重要無線室 ③近畿通信局④KDDI
8	ペット防災訓練	①ペット同行避難者に対する受付対応 ②ペットのゲージ等による管理の実施	①県、三宅町 ②うだアニマルパーク
9	奈良気象台の展示	①奈良気象台の避難所でのパネル展示	①奈良気象台

9. 三宅町体育館(避難所開設・物資輸送訓練)



参加予定: 自主防災会員50名、三宅町10名、防災士会15名、医療関係者100名、看護学生30名、ボランティア50名ほか

10. 下市町・十津川村場外離着陸場(要医療避難者・物資空輸訓練)

1. 訓練の背景

今後発生が危惧される南海トラフ地震等の大規模災害に備えるとともに、平成23年紀伊半島大水害の課題等踏まえ、大規模災害発生時に県南部地域で発生が予測される孤立集落の対応及びインフラ断絶への対応等災害対応能力の向上を図る必要がある。

2. 訓練において目指すべき方向性

- ・孤立集落への速やかな救援物資搬送に伴う自治体と自衛隊航空部隊との連携強化
- ・孤立集落等における要医療避難者の搬送
特に実存する重症難病者の搬送要領の検証、実効性の向上
- ・断絶したインフラの早期復旧
関西電力送配電復旧資材の空輸要領検証、自衛隊航空部隊と連携強化

3. 訓練の想定

地震により県南部地域の主要幹線道路が土砂崩れ等により諸所で寸断し孤立集落及び停電等のインフラ被害も広範な地域で発生している、このため、孤立集落への救援物資の輸送、要医療避難者の病院への搬送及び電力の早期復旧が必要な状況。

4. 全体図



5. タイムスケジュール (10月25日)

時 間		訓 練 内 容	場 所
UH60	UH 1		
	13:00 ~13:30	①小松より移動 ②訓練準備	八 尾 駐 屯 地
	13:30 ~13:45	②要員搭乗 ②救援物資積載	
	13:45 ~14:15	②下市町へ空輸	
14:00 ~14:10	14:15 ~14:45	①上空偵察 ②下市町救援物資御下 ②関電送復旧要員搭乗 ②関電送復旧資材積載	下市町 総 合 運 動 場
14:10 ~14:35	14:45 ~15:00	①②十津川村へ空輸	
14:35 ~14:40	15:00 ~15:15	①偵察終了降機 ②関電送要員降機 ②関電送資材卸下	十津川 上野地
14:40 ~14:50	15:15 ~15:25	①重症難病者搭乗 ②要医療避難者等搭乗	
14:50 ~15:05	15:25 ~15:40	①②下市町へ空輸	
15:05 ~15:10	15:40 ~15:45	①重症難病者受入 ②要医療避難者受入	下市町 運 動 場

6. 参加機関

下市町、十津川村、陸上自衛隊、航空自衛隊
下市町消防団、関西電力送配電

11. 五條市河川敷(道路啓開訓練)

1. 訓練の背景

今後発生が危惧される奈良盆地東縁断層帯、南海トラフ地震等の大規模災害に対して迅速な道路啓開を可能とするため、能登半島地震における課題等を踏まえ、奈良県域の道路啓開の実効性向上及び関係機関の連携強化を図る必要がある。

2. 訓練において目指すべき方向性

- ・奈良県域道路啓開計画の検証
- ・一元化窓口と現場等との情報共有体制の強化
- ・建設業者等の実働部隊の実効力の向上
- ・電力・通信事業者等の関係機関との連携強化

3. 訓練想定

地震により国道24号、国道168号において橋梁段差、電柱倒壊、土砂崩れが発生している。また、橋梁段差の発生や運転を誤った車両の多重事故の発生により、道路上に多数の車両が滞留している状況、このため、奈良県内の関係機関により道路啓開を実施

4. 全体図



5. タイムスケジュール

10月25日(土)

- | | |
|-------|-------------------------|
| 14:15 | 開会あいさつ |
| 14:30 | ヘリ・ドローンによる
情報収集・映像伝送 |
| 15:05 | 啓開作業指示 |
| 15:15 | 道路上の放置車両の移動 |
| 15:40 | 道路段差解消 |
| 16:05 | 道路上の電柱倒壊等の対応 |
| 16:30 | 土砂災害対応・土砂埋没対応 |
| 17:00 | 閉会 |

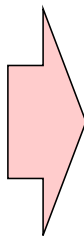
6. 参加機関

奈良県、近畿地方整備局、五條市、奈良県建設業協会、奈良県造園建設業協会、奈良県造園業協同組合、奈良県解体工事業協会、奈良県レッカー事業協同組合、日本自動車連盟関西本部奈良支部、NTTフィールドテクノ、奈良県砂防ボランティア協会、奈良県測量設計業協会、奈良県地質調査業協会、KDDI株式会社、関西電力送配電株式会社、NTT西日本株式会社

12. 第二浄化センター管理棟(広域防災拠点開設訓練)

1. 訓練の背景

今後発生が危惧される南海トラフ地震、奈良盆地東縁断層帯地震等の大規模災害に備えるため、広域防災拠点開設手順書の手順を確認するとともに、広域防災拠点開設要領の練度の向上を図る必要がある。



2. 訓練において目指すべき方向性

- ・広域防災拠点開設手順書に基づく、開設手順の練度及び手順書の実効性向上
- ・災害時緊急連絡員、施設管理者と関係機関との間の連携強化

3. 訓練想定

大規模地震により、県南部地域で発生した土砂崩れ等に伴う孤立集落や建物倒壊への救助活動対応のため、奈良県は警察・自衛隊に対して救助を要請。県は、警察、自衛隊の災害救助部隊の受入のため、県の広域防災拠点である第二浄化センターを開設し部隊を受け入れることを決定。このため、県はリエゾンを第二浄化センターに派遣し、開設手順書に基づき、広域防災拠点の開設を実施。

4. 全体図



5. タイムスケジュール

10月25日(土)

- 14:00 訓練開始
災害対策本部から指定された
災害時緊急連絡員を派遣
拠点到着
- 14:15 応援部隊の受け入れ準備
 - ・施設管理者との連携
 - ・施設及びライフラインの確認
 - ・応援部隊の使用地域等の調整
- 14:50 応援部隊の受け入れ調整
- 15:30 訓練終了

6. 参加機関

県防災統括室、流域下水道センター、陸上自衛隊